

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 155号

平成27年3月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

「小西芳之助金曜会・同志会日誌語録」より (4)

人の信仰を批判するな

他の者を決して攻撃してはいけない。人間の見る眼はほんの一面
だけであり、神の大きな眼から見れば誰がどうなのか分かったもの
ではない。この点で私は無教会の人に対して心配している。もう一
つ無教会に対する心配は塚本先生の「聖書だけあれば、教会も牧師
もいない」という考え方。蓮如の挙げた信仰の二つの条件として、

1. 宿善 (生まれる前の善行)
2. 善知識 (牧師、友人、先輩を通しての)

なるものがある。塚本先生も内村先生という師がなかったならば神
は分かっていたいなかったはずだと思う。結局私の言いたかったことは
人の信仰を批判するなということだ。

(昭和33年1月17日 金曜会)

信仰がわかるまでに 40 年

主観的にはどんなにまずいと思っても、いくらやっても駄目だと思っ
てひょっとしたらいいかも知れんのである。信仰もそうだ。10
年勉強せんといけない。法律経済これは肉の問題。宗教は永遠の問
題だぞ。Sphere (本領) が違う。聖書を開いて読んで見てああわかる
と思ったらあかんぞ。外国語だぞ。foreign なことが書いてあるんだ。
分かっているはずだと思うな。「俺にわかるはずなのわからん。こ
れは非科学的だ。」こう言って君らが捨てるところがたいい大事な
所だ。謡もそうだ。英語もそうだ。知らぬものが聞いておかしな声
だなと思うところが謡らしいところ、英語らしいところなのだ。

外国語を学ぶように本当に知りたいという人が真剣に学ぶ。だか
ら大国の誇り高い人の外国語が下手だ。宗教の専門家に聞け。謙遜
と熱心を持って学べばわかる。不思議なことに宗教は誰にもわかる
ようになっている。天分というものなし。宗教の極意は実に簡単な
のだ。Whoever believes in Jesus is saved. (誰でもイエスを信ずる者
は救われる。)「誰でも」と書いてある。勇気をもって学んでほしい。
僕は信仰がわかるまで 20 年という説だった。これから 40 年説に改
めた。受洗以来 40 年、今少しわかりかけたからである。内村先生は

18歳で受洗し、中央に宣教を始められたのは58歳である。「咲く花は多し、されど実となるは少なし。実となるは多し、されど熟するは少なし」40年間、大樹のように育っていくのだ。3つの義務、地味な義務だが守れ。2年間の間に種を頂き、それを育てるのだ。モーセも40年さまよったではないか。これは小西セオリーだ。嘘か本当か君ら年をとったらわかる。

内村先生も50歳で娘を亡くして初めて復活がわかった。キリスト教の原理がそう簡単に分かるものではない。それをちょっと読んで、「なんと愚劣なことが書いてある！ 恐るべき迷信の親玉だ。」茶もよく知らぬ人が見れば狂気。キリストの救いも「パウロよ、汝の博学汝を狂せしめたり」と見える。辛抱して10年謙遜してやれ。

(昭和33年4月18日 金曜会)

各国にもてる宗教は旧教であるべき

スウェーデンの誰かが「世界の各国においてその国のもてる宗教は旧教であるべきである」ということを言ったのですが、これには私は非常に感激した。浄土真宗と同物異名とみてよいとハイラー氏は言う。深いロゴスと関係づけて理解していいと私はハイラー氏の言を受け取った。ハイラー氏の話「浄土真宗を見て驚いた。親鸞は東のルター。ルターは西の親鸞です」と言ったんだ。我々が仏教を忘れ去ったころ、これはかえって西洋から逆輸入されるのではないか。カール・バルト氏も大いに親鸞を認めているのです。

(昭和33年10月24日 金曜会)

忍耐をもって仕事につくせ

新しく卒業する諸君の就職が全部決まったそうで喜ばしい。第1希望のところ、あるいは第2希望、第3希望のところに決まった者もあるだろうが、決まった職業が自分にはあまり好きでないという人もあるかも知れない。しかしそれは私の経験からいってやはり自分の進むべき道であると思う。忍耐をもってその仕事に尽くせ。30歳、40歳になってきっとそれが自分の道であったと悟るだろう。神から与えられたものとして勇躍仕事に尽くせ。

(昭和33年11月7日 金曜会)

金沢常雄先輩追悼の言葉

金沢先輩の説かれた福音——先輩は大正7年に〔同志会を〕出られて、私は9年に入ったので、在会中は知りあうことがなかったが、ひょっとしたことから先輩とお知り合いになることが出来た。先輩から直接〔聖書〕講義は聞かせて頂かなかったから弟子ではないが——先輩のとかれた福音は、先輩の生涯がそれを証明している。同志会の多くの先輩が政界・財界・学界に貢献しているが、先輩の66年の生涯は年とともに光を増して、将来もまた私達を教えることであろう。

多くの先輩達の間でも先輩は光っていらっしゃる。また伝道界に立った6人の中でも光っている。先輩を持ったことは同志会にとってこれ以上の名誉はない。金沢常雄先輩の故に同志会の名は日本歴史に残るのではなかろうかと思っている。

我々の目から見れば先輩の一生は失敗であって何一つ目に見えるものではなかった。大なる弟子があるでなし、大なる研究があるでなし、大なる神学があるでなし。しかし私は信仰において、人間は信仰において救われるということにおいて、このなくなることのなただ一つのことにおいて先輩はユニークな活動をなさったと思う。

伝道者として先駆なされた先輩がかような方であったことを考えて、私達のような伝道者にも大きな意味をもつのではないか。初穂が全体の流れを決定するのではないかと思っている。

(昭和 33 年 12 月 5 日 金曜会 金沢常雄先生追悼会)

真に人間を幸福にし、支えていくもの

同志会がこういうふうにもつと続いているのは多くの先輩が立派な業績を挙げたということではない。私の年齢（5月で just67）になると真に人間を幸福にし、支えていくものが何であるかがわかる。ただこの年齢になって気が付くとい言うのでは遅い。君達の時から本当のものを知ることが必要だ。中江藤樹のような偉い人は13歳にして「天子より庶民に至るまで実を治むるをもって基とす」を知ったという。君達の頃からそれを求め、遅れをとることがなきように。それには同志会がもっともいい場所だと思う。それを体得すれば幸福になれるだろう。

(昭和34年4月24日 金曜会 署名式)

宗教とは、死の問題の解決

昨朝のNHK「朝の訪問」で花山信勝師(真宗僧侶、西本願寺より米国へ行かれる)が出た。「宗教とは何ですか」「宗教の定義、我流に行なってどうにもならぬ悲しみ苦しみを解決するものである。死の問題である。死の問題が解決できたら他の事は解決できる」 私も全く同意見である。

坊主は葬式のみ行なっていると人は言う。一応の理があるがどんなに偉い人でも科学者、富者、政治家でも、死の問題、之に対して解決するのは宗教家であると思う。葬式をやるということは死についての徹底的解決を与えていることだと思う。葬式を僧侶がやるということは死の解決は宗教家の手にあるということを示している。

.....

宗教は復活の命が中心であると思う。花山信勝師の言葉は至言であると思う。諸君も聖書を読むのは虚心坦懐に読み、命の賜物を得ようと読むべきである。それが分かればこれをなすべしとか、善行、奉仕とかは二の次である。

(昭和 34 年 5 月 1 日 金曜日)

相撲のけいこと信仰

今相撲がおこわれているので相撲に関係した話をしよう。先日NHKで栃錦関を訪問していろいろ話をした。最後にアナウンサーが「これまでになるのに大変だったでしょう」というと栃錦関は「5年、10年と一生懸命やる人は必ず強くなる。“肉もだんだんついて来る”」と言った。この“肉もだんだんついてくる”という言葉が非常に興味深かった。栃錦関は体もそう大きな人ではない。今日まで(13日間)全勝を続けているが熱心にけいこをする人は必ず強くなるのだ。信仰も同じだと思う。自分の信仰は如何、あるいは自分の行いに対して信仰はどうかと毎日々々考える人は少しずつ進行が進んでゆく。毎日考えなくても、週に一度でも教会、集会に出て先生の話聞く。それが非常に大事だ。日曜ごとに教会へ行けば5年、10年と経つうちに必ずものになると思う。

“やせている人間でも肉がついてくる”そう栃錦が言っている。だから信仰もきっと神様が肉をつけて下さるに違いない。この前加藤君が毎日靴を磨くという話をしたが私も毎日靴を磨く。そうすると靴の釘がゆるんだり、川が少し痛んだらすぐわかる。だから信仰も毎日考えるとどこが悪いか自然とわかる。先生の話もよく聞いて

いたら自分のどこが悪いかがよくわかるが、ぼんやり聞いていてはわからない。同じ話でもずいぶん消化の仕方が違う。で私は靴ばかりかこの頃は帽子にブラシをかける。…よく手入れすると帽子も長持ちするのだ。だから諸君も毎日手入れすることが必要だ。信仰でも毎日考えていないと日曜に教会へ行くのも面倒になる。

(昭和 34 年 5 月 15 日 金曜会)